

新 戎 橋 しんえびすばし ●Shin-ebisu-bashi
〈道頓堀川〉

御堂筋の西側、西心斎橋から道頓堀川を渡り難波に至る橋が新戎橋。この橋は明治26(1893)年、北の久左衛門町(現・西心斎橋2丁目)と南の久郎右衛門町(現・道頓堀2丁目)を結ぶ市道佐野屋橋筋線に架かる、新蛭子(戎)橋と呼ばれていた橋だった。

大正時代と昭和初期に改築されたが、戦災で焼け落ちたため、戦後の昭和26(1951)年に市と御津・大宝両地区が協力して、ヒノキ造りの高欄で朱色の美しい木造鉄骨橋を完成させた。完成式には文楽の吉田文五郎師の指揮による「寿式三番叟(ことぶききさんばんそう)」を先頭に地元の高齢者や幼稚園児、一般市民が渡り初めを行った。

現在の橋は、昭和38(1963)年に鋼製の橋に架け換えられ、平成4(1992)年には歩道設置ならびに橋面整備が行われた。さらに平成19(2007)年の道頓堀川水辺整備事業に併せ、歩道拡幅・橋面整備・耐震対策・修景整備の改修工事を行い、同20(2008)年に完成した。先代の橋の朱色の高欄をイメージしてフレームに朱色を取り入れ、歩道には白御影石、地覆には黒系の塗装を施し、夜間には高欄にガラスで挟み込んだ和紙が照明に浮かび上がる橋になった。

